

同窓会女性部会員の皆様へ
教員生活の振り返りと近況報告

野村修一
3期生、包括歯科補綴学分野

平成25年明け、仕事始めの4日に研究室の書棚を整理しています。歯学部校舎の大型改修に向け、仮住まいへの引越し準備です。現在の研究室がある歯学部C棟の大型改修は第一期工事で実施されます。引越し先は旧歯学部病院の義歯診療室で、建物はつながってはいても、引越し荷物は少ないに越したことはありません。改修が終了する8月予定の再引越しと、平成26年3月の定年退職を考えて出来るだけ身軽に動けるようにと考えています。古い学会雑誌や読まなくなった本を精力的に廃棄しながら、溜まれば溜まるものだと呆れています。(この原稿を書き始めたのが1月であったため、引越し前の様子です。現在は改修工事中でコンクリート掘削の騒音を聞きながら書いています。)

振り返ってみると、我々3期生が卒業した昭和48年に旧医学部グランド跡地に歯学部玄関のあるC棟と講堂などが完成しました。学生時代は建築中の新校舎を横目で見ながら、木造の旧医学部病院で臨床実習を行っていたことが思い出されます。卒業後は歯科補綴学第一講座(石岡 靖教授)に助手(現在の助教)として入局し、最初の仕事は医局や実習室の引越し要員でした。歯科医師免許証も届き、基礎実習のライターとして教員(昔は教官)生活がスタートしました。

6期生の皆さんが最初の学生さんでした。もっとも、教員という自覚は殆んどなく、一応経験してきた実習内容を後輩に伝える程度でした。6期生はテニス部の後輩が多数いたので、結構好き勝手な事を話していたような思い出があります。当時のカリキュラムでは有床義歯学の実習時間は多く、1年中週2日の午後は実習室で過ごしていました。6期生とはその後、臨床実習までライターとして持ち上がったので、最も印象深いクラスとなりました。その後のクラスとは、臨床実習でのお付き合いが主でした。

早いもので大学教員生活も今年で40年目となります。昭和48年から20年間は第一補綴で有床義歯学や下顎運動に関する研究を行ってきました。後半の20年間は、ほぼ5年周期で目まぐるしく所属が変わりました。平成5年に特殊歯科総合治療部、平成10年には加齢歯科学講座の教授に就任しました。その後も、平成14年に加齢・高齢者歯科学(旧第二補綴、平成17年に加齢歯科補綴学と変更)、そして平成20年に現在の包括歯科補綴学分野(旧第一補綴)を担当することとなり、元の鞆におさまった感じです。

「転石苔むさず：A rolling stone gathers no moss」という諺があります。

地位も財産もできないという否定的なたとえと、時代に取り残されないという肯定的なたとえに用いられるようです（旺文社：成語林）。さて、私の場合はどちらでしょうか？ただ言える事は、多様な若い先生方と交流できたことは大変幸せなことであり、私の貴重な財産であると感謝しています。

さて、教員生活の事はこの位にして、趣味を報告します。学生時代のクラブ活動で始めたテニスは、今も週 1 回スクールに通って細々と続けていますが、イメージと現実との大きな乖離に打ちひしがれています。

50 歳を機にのめりこんだゴルフ。止まっているボールを打つことに何で苦労するのかと少しなめていましたが、止まっているだけに質（たち）が悪いことを知りました。プロゴルファー石川 遼の台詞「ゴルフは確実に上手くなっている。しかし、それがスコアに結びつかないのがゴルフ」を言い訳に使って、芝刈りに励んでいます。

昨年の最大の感動は、初のフルマラソンを完走したことです。大学院生との飲み会で、酒の勢いもあってフルマラソンを走ることになりました。10 月の新潟シティマラソンでハーフを、12 月の NAHA マラソンでフルを走りました。10 年ほど前は新潟マラソンでハーフを走っていましたが、最近はおっばら 10 Km 走っては打上げで盛り上がっていたので、完走できるか心配でした。NHK Eテレで放送していた【趣味 Do 楽「3 か月でフルマラソン」】のテキストを購入し、「体幹ランニング」を意識してトレーニングした結果、新潟マラソンは 2 時間 22 分とほぼ予定したタイムで、比較的余裕を持ってゴールできたので、この調子ならばフルマラソンも大丈夫と思い込み、沖縄へ出発しました。しかし、ハーフとフルでは全く異なるものと知らされました。幸い降雨によって気温がそれ程上がらず、何とか制限時間の 6 時間 15 分内にゴールすることが出来ました。記録はグロスタイム 6 時間 00 分 38 秒、ネットタイム 5 時間 39 分 10 秒でした。今年は、制限時間が厳しいですが、新潟マラソンでフルを走ろうかと思っています。





新潟シティマラソン完走（平成 24 年 10 月 7 日）